

# 開催要項

※展覧会の名称は変更する場合があります。

琳派展18

## 京の琳派 —美を愉しむ—

平成28年9月10日(土) — 11月6日(日)

細見美術館

# 琳派展18 京の琳派—美を愉しむ—

会期：平成28年9月10日(土)  
—11月6日(日)

## 開催趣旨

このたび当館では尾形光琳没後300年、神坂雪佳生誕150年を記念し、琳派展の18弾として「琳派展18京の琳派—美を愉しむ—」を開催いたします。細見コレクションによる京琳派の世界をお愉しみください。

江戸初期の京で光悦・宗達が行ったのは、平安の美意識を新たな視点で創作する試み。料紙装飾や物語絵などにみる古典美に新風をもたらしました。

江戸中期の光琳・乾山は、衣・食・住に彩りを添える意匠を次々と提案、雅やかな京のデザインを広く普及させるきっかけを作り、江戸でも活動しました。

雪佳生誕  
150年。



神坂雪佳 月に秋草団扇

入館料：一般 1200円(1100円)  
学生 1000円(900円)  
※( )内は20名様以上の団体料金

休館日：毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)



尾形光琳 宇治橋団扇

光琳没後300年、

江戸後期の芳中は、宗達・光琳の自由な気風に触発され、「たらし込み」を看板に光琳風の画家として活躍、親しみやすい琳派を作り出しました。

さらに近代には、雪佳が工芸图案家として活躍、光悦村に理想を重ね、古典を盛り込んだ温かみのあるデザインを提唱しました。

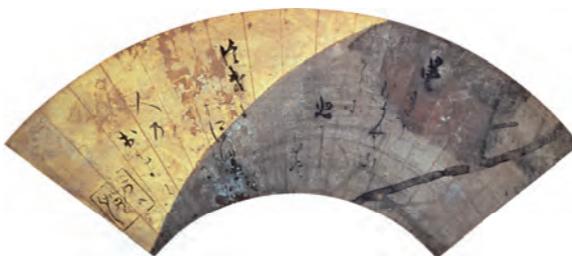
京の琳派は、生活空間を豊かに彩る身近な美として親しまれてきたため、絵画や工芸といった領域を超えて、さまざまなジャンルに応用され、愛され続けています。

本展では、京都で受け継がれた琳派の流れを細見コレクションで紹介し、京の琳派の特徴として「美を愉しむ」姿を読み取っていきます。

開館時間：午前10時～午後6時  
(入館は、午後5時30分まで)

会場：細見美術館

## 主な出品作品



本阿弥光悦 書/俵屋宗达 下絵 月梅下絵和歌書扇面



俵屋宗达 伊勢物語図色紙「大淀」



尾形光琳 柳図香包



尾形乾山 鎏绘牡丹唐草文向付



中村芳中 扇面貼交屏風(左隻)



神坂雪佳(案・画) 若松鶴図文机・硯箱

※すべて細見美術館蔵

Rimpa of Kyoto The Enjoyment of Beauty